

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 10 月 13 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071401865		
法人名	有限会社 タワラ		
事業所名	グループホーム 第2幸せの枝		
所在地	福岡市早良区田村7丁目24-84 〒814-0175 (電話) 092-874-3185		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年10月7日	評価確定日	平成21年11月9日

【情報提供票より】(平成 21 年 9 月 18 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5 人	非常勤 6 人 常勤換算 5.1 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての～	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(165,500 円)	有の場合償却の有無	有	
	無		無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日あたり 円程度			

(4) 利用者の概要(9 月 18 日現在)

登録人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名				
要支援1	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低 77 歳	最高	97 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大塚クリニック、前田歯科、案の浦クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福岡市のベッドタウンとして開発が進むなか、近くの室見川が散歩コースにあたるなど、住環境に恵まれた場所に立地している。一般住宅を改修したホームであり、中庭やウッドデッキでうたた寝するノラ猫の姿は、利用者・職員の癒しとなっている。リビングは、朝顔で夏場の厳しい日差しを遮るなど、自然採光に配慮された居心地のよい空間づくりがなされている。利用者の状況の変化に伴い遠出が難しくなってきたなか、日々の散歩、近隣宅や子供達を通じた交流など、普段着の交流が行われている。食事中に冗談が聞こえ笑いがたえない食事風景から、職員と利用者間の信頼関係の厚さと居心地の良さが伺える。今後も、地域とのかかわりを大切にしながら、笑顔と笑いの絶えない、利用者の視点にたったケアへの取組みが期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果に関しては、運営推進会議やカンファレンスにて報告・検討を行うなどの取組みがある。この過程において、利用者の健康管理や状況の変化を敏感に察知するなど、質の向上に向けた取組みがある。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の受審にあたり、ホーム長が各職員に聞きながら自己評価を行うなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 町内会長、副会長、民生委員、地域の方、地域包括支援センター職員、家族等が集って開催している。ホーム状況や外部評価結果についての報告や認知症に対しての質疑応答、地域高齢者の情報収集など、情報交換・意見交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族面会時の声かけ、毎月の通信の発行、年2回の家族会時、その都度の電話連絡などを通じて説明・報告が行われるとともに、家族の要望等の表出に努めている。出された疑問や要望等については、その都度回答したり、カンファレンスで協議するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日々の散歩時の声かけや地域行事への参加のほか、近隣の子供達が遊びに立ち寄りたり、ホームの畑で取れた野菜をお裾分けしたり、いただき物をするなど、普段着の交流が行われている。また、ホームで地域交流会を開催し、利用者と地域住民との交流の場を確保するなど、積極的な取組みがある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、地域を意識した理念を作成し ており、地域とのかかわりを意識しながら、利 用者一人ひとりの個性を大切にしたケアに取り 組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ホールや事務所に理念が掲示されてお り、自然と目につく工夫がある。利用者の個性 を大切に、一人ひとりを尊重したケアを心がけ るなど、理念の実践に向けた取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	日々の散歩時の声かけや地域行事への参加の ほか、近隣の子供達が遊びに立ち寄ったり、ホ ムの畑で採れた野菜をお裾分けするなど、普段 着の交流が行われている。また、ホームで地域交 流会を開催し、利用者と地域住民との交流の場 を確保するなど、積極的な取り組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果に関しては、運営推進会議や カンファレンスにて報告・検討を行うなどの取 組みがある。今回の受審にあたり、ホーム長が 各職員に聞きながら自己評価を行うなどの取組 みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者が集っての2~3ヵ月毎の開催がある。ホーム状況や外部評価結果についての報告や認知症に対する質疑応答、地域高齢者の情報収集など、情報交換・意見交換の場となっている。		年間計画による運営推進会議の開催、及び運営推進会議時を利用した各種出前講座の利用や地域包括支援センター職員による講話の開催など、より充実した運営推進会議となるような取組みを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加が見られる。また、家族の中に行政に勤める家族があり、家族会等の時に助言を得るなど、連携が図られている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度等に関する研修参加後、カンファレンス時に報告会を行うなど、職員の理解を深めるための取組みがある。家族へは、契約時に説明が行われている。		契約時の説明に留まらず、運営推進会議時等を利用して、地域包括支援センター職員から制度についての講義をしていただくなど、広く情報を発信し、繰り返しの制度の説明と周知への取組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけ、毎月の通信の発行、年2回の家族会時、その都度の電話連絡などを通じて、認知症の今後の予測も含めて、現状についての説明が行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の声かけ、毎月の通信の発行、年2回の家族会時、その都度の電話連絡などを通じて説明・報告が行われるとともに、家族の要望等の表出に努めている。出された疑問や要望等については、その都度回答したり、カンファレンスで協議するなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりはほとんど無く、利用者との馴染みの関係が構築されている。新しい職員が入職した場合は、まずは利用者寄り添い、利用者とのコミュニケーションを密にとってもらい、先輩職員が指導に当たるなど、馴染みの関係作りへの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関して、ヘルパー2級を義務付けているが、その他の制限は一切設けられておらず、人間性や笑顔を重視しての採用である。得意な事や不得意な事を、職員間でフォローしあうなどの取組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部で行われる人権に関する研修会への参加を通じて、人権について学ぶ機会がある。また、研修参加後は、カンファレンス時に報告会を行うなど、情報の共有とホーム全体のレベルアップに向けた取組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望を募ったり、職員の経験年数等を考慮して外部研修へ参加している。ホーム内での勉強会への取組みはその時々で行われているが、職員の意識を高めるような取組み方や内容の充実については、今後の課題である。		ホーム内部の勉強会時、順番に職員に講師役を務めてもらうなど、職員のモチベーションを高めるような勉強会への取組みを期待します。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ホーム長の個人的な知り合いを通じての情報交換が行われている。また、知人同士が別々のホームを利用しており、この利用者との交流を通じて、職員間の交流が行われている。		今後計画されている、地域包括支援センター職員と近隣の事業所合同による職員交流を实践され、質の向上に向けての情報交換、及び、職員個々の気づきやモチベーションをあげる機会となるような取組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規利用者に対して、寄り添い、傾聴、対話を重視したケアを行い、利用者の不安を軽減し、徐々に馴染めるような支援への取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々のかかわりを通じて精神的な面で感じ、学ぼうとする姿勢が伺える。職員は、利用者の笑顔と何気ない一言に癒され、勇気付けられるなど、精神的に支えあう関係が構築されている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりやレクリエーションの一環としての絵馬作り、毎月の幸せ会議（利用者との話し合いの場）などを通じて、利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のかかわりや毎月の幸せ会議等にて利用者の希望の把握に努め、家族の面会時やその都度の連絡などを通して、家族の思いや意向の把握に努めている。把握した本人・家族の希望等を基に、カンファレンスで協議し、介護計画へ反映させるなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月のカンファレンス時に、ケアプラン チェック表を基に利用者の状況等を全職員で協 議し、担当職員が評価をまとめるなど、職員全 員で確認、見直しへの取組みがある。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	協力医療機関による月2回の往診や医療連携 体制による、適切な判断と専門医療機関への受 診支援が行われている。利用者の個別支援とし ての買物やドライブなど、柔軟な対応がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時に今までのかかりつけ医の継続とホー ム協力医療機関の利用について相談を行い、本 人・家族の希望に沿って支援している。ホーム 協力医療機関による往診と受診、必要に応じた 専門医療機関への受診支援など、適切な支援が ある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況に応じて、主治医・家族・職員 を交えての協議をその都度行い、家族の意向の 確認と意向に添った支援が行われている。		家族会等を通じたアンケート形式による家 族の意向の把握、また、日常のかかわりを通 じた本人の意向の把握に努め、アセスメント 内容等の充実と情報の共有への取組みに期待 します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者に寄り添ってのさりげない声かけや出 来ることを見守りながらの支援など、精神面で のかかわりに配慮した対応が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムや意欲を尊重 して、食事にかかる時間や入浴のタイミング、 日中の過ごし方、排せつに対する訴えなど、日 常生活のあらゆる面において利用者のペースを 尊重した対応が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	職員と利用者が一緒にテーブル拭き、食事の 後片付けを行うなど、利用者の出来ることを活 かした取組みがある。利用者と職員は同じテー ブルで食事をとり、冗談が聞こえるなど、笑い がたえない食事風景であった。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本的に1日おきの入浴であるが、入浴の準 備は毎日しており、利用者の状況や希望に応じ て柔軟に対応している。入浴拒否が見られる場 合は、無理強いせず、声かけのタイミングや方 法を変えるなど、入浴が楽しくなるような取組 みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	草取り、野菜の収穫、テーブル拭き、食事の 後片付け、水やり、折り紙など、利用者の出来 ることや楽しみごとなどを把握し、介護計画書 に取り入れての支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	毎日の散歩、草取り、買物、ドライブなど、 利用者の希望に沿って柔軟に対応している。車 椅子使用の利用者も、毎月の行事としての外出 には必ず出かけるなど、戸外に出るための支援 がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。職員は、利用者 のきめ細かな観察により外出傾向を把握し、後 ろからついて行くなどの対応がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回の消防署職員立会いによる避難訓練 を実施し、避難場所や避難経路の確認、消火器 の取り扱い等の指導が行われている。運営推進 会議時に、避難訓練のお知らせや緊急時の協力 をお願いするなどの働きかけがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	管理栄養士が立案したメニューを参考に利用 者の希望を取り入れながら、ある食材や旬の食 材を利用して調理している。食事量の記録及び 1日1200ccを目標とした水分摂取への取組み、 必要な利用者に対しての水分量の把握と水分補 給を促すなどの支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは、中庭に咲く季節の花を愛で ることができ、中庭やウッドデッキでうたた寝 するノラ猫の姿は、利用者・職員の癒しとなっ ている。リビングは、朝顔で夏場の厳しい日差 しを遮るなど、自然採光に配慮された居心地の よい空間であった。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	各居室には、机や椅子、趣味の本などの使い 慣れた物や馴染みの物が持ち込まれており、利 用者の人柄が伺える居室作りがなされていた。		

は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号